

公衆衛生學研究科

公衆衛生學專攻

專門職學位課程

博士後期課程

目 次

IV－I．専門職学位課程（MPH）

（１）教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー	1
（２）コンピテンシー基盤型教育、問題解決型アプローチ	4
（３）養成人材別の達成すべき能力	7
（４）行事予定	8
（５）授業科目一覧、授業時間割、授業科目の概要	9
（６）カリキュラムマップ	16
（７）教員一覧	18
（８）履修の手引き	
1．履修の申込みと変更の届け出等	21
2．授業科目の履修	22
3．成績評価および GPA 制度	24
4．海外提携大学との交流及び留学支援	25
5．履修届・履修科目変更届（見本）	26
（９）アカデミックアドバイザー（AA）	28
（１０）研究科委員会賞	28
（１１）その他留意事項	28
（１２）授業年間時間割	30

IV－II．博士後期課程（DrPH）

（１）教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー	32
（２）コンピテンシー基盤型教育、問題解決型アプローチ	35
（３）行事予定	38
（４）授業科目一覧、授業時間割、授業科目の概要	39
（５）カリキュラムマップ	44
（６）教員一覧	46
（７）履修の手引き	
1．履修の申込みと変更の届け出、学位申請等	49
2．授業科目の履修	50
3．成績評価および GPA 制度	52
4．海外提携大学との交流及び留学支援	53
5．履修届・履修科目変更届（見本）	54
（８）学位授与	56
（９）その他留意事項	58
（１０）授業年間時間割	60

(1) 教育目的、ディプロマポリシー・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

＊教育目的

公衆衛生学研究科は、建学の精神に則り、人々の命を守り健康を増進させるとともに、健全な保健医療体制の持続的な発展と医療の質の継続的な向上、健康を維持する社会づくりに寄与する。そのために、様々な公衆衛生上の課題に対して指導的立場で科学的判断に基づく問題解決ができる高度専門職業人を養成する。また保健医療活動に代表される、人々の生命を守る活動を統括指導できる高度な実践能力とリーダーシップを併せ持つ公衆衛生の上級管理者・上級指導者の養成を目的とする。このような公衆衛生の人材育成を通じた社会貢献を行うことが研究科の教育目的である。

- 公衆衛生学専攻（専門職学位課程）は、国内外の現場で発生する公衆衛生上の諸問題に対して専門領域ごとに指導的立場で問題解決ができる高度専門職業人の養成を目指している。

＊ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

公衆衛生学研究科専門職学位課程は、国内外の現場で発生する公衆衛生上の諸問題に対して専門領域ごとに指導的立場で問題解決ができる高度専門職業人の養成を目指している。従って、高度専門職業人養成という観点から以下のような能力を身につけ、かつ2年コースの場合は2年以上、1年コースの場合は1年以上在学し、課題研究報告書の審査に合格し、所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。

1. 公衆衛生の5つのコア領域（疫学、生物統計学、社会行動科学、保健政策・医療管理学、産業環境保健学）の基本的内容を理解している。
2. 環境・社会との関わりから健康事象を理解し、健康問題に包括的な視点をもって対処できる専門的知識・技術・態度を習得する。特に今日の医学・医療や人々の健康を取り巻く状況の変化を理解し、実際の現場で対処できる専門的な技術と指導力を有している。
3. 集団を対象とした健康事象の把握手法、および因果関係推定の技法であり、根拠に基づく医療（EBM：Evidence Based Medicine）に必須である疫学を修得することにより、科学的根拠に基づく医療や公衆衛生活動を実践できる専門的な技術と指導力がある。
4. 予防、診断・治療、社会復帰に係わる社会的取組み、諸システムを体系的に理解し、それを公衆衛生の実践に適用できる専門的な技術と指導力を有している。
5. 身体的・心理的・社会的に弱い状況におかれた人々の立場を理解したうえで、予防、診断・治療、社会復帰に係わる社会的取組み、諸システムを体系的に把握し、それを公衆衛生の実践に適用できる専門的な技術と指導力がある。
6. 対象となる活動の場が国内外の如何を問わず、公衆衛生の課題についてグローバルな視点を備えて事象の理解ができる。
7. 研究科で定めた専門職学位課程に必要なコンピテンシー（別記）を備えている。

*カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

学位授与に要求される知識・能力を修得するために、公衆衛生学専攻（専門職学位課程）では、以下の方針でカリキュラムを編成する。

1. 国際標準として公衆衛生専門職に求められる一定レベルの知識・技能を習得するため、米国の公衆衛生教育協会 Council on Education for Public Health（以下、CEPH）の認定基準に準拠し、「疫学」、「生物統計学」、「社会行動科学」、「保健政策・医療管理学」、「産業環境保健学」の5つの領域（科目群）を設け、養成する人材像にかかわらず、各領域の基礎科目を必修科目としている。
2. 社会や環境との関わりで人間を捉えるという疫学的な思考と公衆衛生マインドを涵養するため、養成する人材像にかかわらず、「疫学」と「生物統計学」の講義・演習、ならびに「公衆衛生倫理学」を必修科目として設定している。
3. 現場の問題に発し、現場の実践に資する能力を身につけるため、理論先行の公衆衛生教育から一歩踏み出し、ケースメソッド演習やグループ討論、現場実習による実践教育に重点を置き、「調査・研究法概論」によりリテラシー教育を行い、各養成人材に適合する以下のような演習科目や実習科目を配置するとともに、「インターンシップ」科目も設けている。さらに知識の体系化を図る、言い換えれば実践の場に還元できる能力を身に付けるために、「課題研究」を必修としている。

養成する人材像と関連する科目の具体例（一部）

【総括産業医・労働衛生コンサルタント・産業衛生学会専門医】産業環境保健学実習、産業精神保健学演習

【産業・環境保健の作業環境測定士・環境計量士】産業環境保健学実習

【保健医療機関・メディカル部門の管理者】医療経営学演習、医療管理学実習

【臨床試験・生物統計の専門家】臨床疫学、基礎生物統計学、データ解析演習、社会調査データ解析演習

【国際保健の専門家】国際保健学演習、国際保健学実習

【地域保健医療の専門家】地域保健学

【公衆衛生行政の専門家】医療保障政策論など

4. 公衆衛生上の広範かつ多様な課題に対応するための公衆衛生専門職業人に求められる資質・能力（コンピテンシー）と問題解決力を身に付けるため、「課題研究」「リーダーシップ・マネジメント論」の科目を設けている。
5. 海外の最新事情や最先端の知識に触れてグローバルな視点を身につけるため、5つの領域ごとの世界的権威であるハーバード大学やオックスフォード大学、ケンブリッジ大学等の教授陣による「特別講義（冬季集中）」を設けている。加えて、主にアジア諸国の提携校の学生も参加して実施される英語による講義科目（「Healthcare Management」、「Universal Health Coverage & Aging Society」）も設けている。

公衆衛生学研究科について

帝京大学大学院公衆衛生学研究科（帝京 SPH）は、2011 年 4 月に専門職学位課程として開設されました。Master of Public Health (MPH)に加えて、2014 年 4 月には Doctor of Public Health (DrPH) を取得できる博士後期課程も開講しました。本学の建学の精神と教育指針にある実学、国際性、開放性に則り、公衆衛生の専門職の育成を目的にしています。

帝京 SPH の特長は、ハーバード大学等との連携のもと、国際基準で必須とされる 5 分野（疫学、生物統計学、産業環境保健学、保健政策管理学、社会行動科学）を基本としたカリキュラム、21 世紀の保健医療専門職の教育として必要とされるコンピテンシー基盤型教育を通じた問題解決のできる人材、すなわち、世の中や社会あるいは組織を変えることのできる“Change Agents”の育成です。

日本や世界の公衆衛生と保健医療福祉は常に大きな問題を抱えています。時代により問題は変化し、解決方法も一様ではありません。現在、そして将来の課題と社会のニーズに対応できる Change Agents を育てるため、以下のミッション、ビジョン、バリュー、そして、ゴールをもとに、教育、研究、そして公衆衛生の実践を続けます。

ミッション

社会における公衆衛生課題の解決を目指すリーダー（Change agent）を養成する教育と、実践に結びつく科学的研究を通じて、健康でより良い社会をつくり、いのちとくらしを衛ります。

ビジョン

- ・ 公衆衛生専門職教育のフロントランナーとして、科学と実践を結ぶ問題解決能力と研究能力を養い、より健康な社会づくりを目指すリーダーを育成する場であり続けます。
- ・ 公衆衛生の専門職教育と連携し、公衆衛生課題の解決に結びつく研究に基づいてより健康で良い社会に変えます。

バリュー

自発的に、実践的に、多様に、革新的に、科学的に、国際的に、公衆衛生活動を共に。

ゴール

- ・ 公衆衛生課題の解決に資する実践的・科学的研究を国内外で実施し、その成果をもとにより健康な社会の実現に努めます。
- ・ 日本とアジアの公衆衛生大学院における専門職教育改革を推進するため、高い資質と能力を備えた専門家を世に送る専門職大学院の実践的な教育方法の開発と実施に努めます。
- ・ 日本国内外でおこる公衆衛生の現在あるいは将来の課題に取り組むよう、地域や産業界などとも連携し、地域社会（コミュニティ）での公衆衛生に貢献する活動を行います。

公衆衛生学研究科長 福田吉治

(2) コンピテンシー基盤型教育、問題解決型アプローチ

コンピテンシー基盤型教育

学術の深奥をきわめることではなく、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学術及び卓越した能力を培うことを目的とする専門職大学院として、専門職たるにふさわしい能力・資質を明示することは、学習を行う上でもその教育を行う上でも有用と考えられる。いま欧米で広がっているアウトカム基盤型教育と修得すべきコンピテンシー設定は世界的流れになっている。本学の建学の精神にある国際的視野を持つためには国際的基準に則った教育は必須である。公衆衛生専門職に求められるコンピテンシーについて、米国公衆衛生大学院協会（ASPPH）は2006年に7つの項目を提示している。本研究科ではこれらの背景も含め検討した結果、以下の8項目の資質・能力を専門職学位課程（MPH）のコアコンピテンシーとして定めた。

I. コミュニケーションと情報科学

データを収集、取捨選択・統合して意味のある情報とし、目的に応じて戦略的に情報提供や知識共有を進める能力

1. 他者と意思疎通し、他者から学び、他者に働きかける積極的な姿勢を持つ。
2. コミュニケーションに必用十分な文書作成と説明・会話ができる。
3. データの収集、処理、伝達のために使える手段と設備、制度を説明できる。
4. 社会、組織、個人の要因やそのヘルスリテラシーに応じたコミュニケーションができる。

II. 多様性と文化

世界及び国内、地方・地域のさまざまな個人や社会（組織）と協力して活動する能力

1. 異なる文化的価値観や社会的伝統に応じた保健計画や戦略を策定できる。
2. 公衆衛生に関係するさまざまな職種の役割を説明できる。
3. 人々が自ら参加する公衆衛生活動の成立条件を説明できる。
4. 健康格差を生み出している多様で構造的な不平等の要因を説明できる。

III. リーダーシップ

組織や社会の抱える問題の解決のために未来を見据えた目標を作り、伝え、共有させるとともに、それに向かって献身的に取り組む能力

1. 組織の使命と役割および将来目標について明確に説明できる。
2. 人々が合意形成し、協力して問題解決できるよう動機づけできる。
3. チーム作り、交渉および紛争解決ができる。
4. 全ての行動で透明性を維持し、誠実かつ勤勉に活動できる。

IV. 医学・生物学的基礎

公衆衛生の基礎に医学・生物学があることを理解しそれに基づき判断する能力

1. 生物学的、化学的、物理的な要因と健康の関わりを説明できる。
2. 疾病の予防と管理のために、生物学の原則を適用することができる。

V. 専門家としての職業意識

身体的・心理的・社会的に弱い状況におかれた者の立場を十分に理解・共感し、公衆衛生上の倫理規範に基づいて実践する能力

1. 清廉潔白さ、熱意、誠実、すべての人を尊重するという意識を常に持つことができる。
2. 公衆衛生の倫理要項や人権規約、社会正義を公衆衛生の実践に適用できる。
3. 常に専門職としての知識と技術の維持向上に努め社会の変化に対応できる。

VI. 計画策定

個人や社会の健康向上を図るための戦略を描き、発展させ、実施し、評価するための計画(保健計画)を策定する能力

1. 保健計画における目的、測定可能な目標、関連の活動、期待される成果を説明できる。
2. 個人、組織、社会の様々な要求に優先順位をつけ、それに基づいて資源配分を行える。
3. 保健計画について「構造」、「過程」、「結果」のそれぞれ評価の相違を説明できる。
4. 定性的・定量的評価各々の信頼性と妥当性、強み、限界、適切な応用法を説明できる。

VII. システム思考

公衆衛生的事象は、人間と社会制度との動的相互作用から生まれることを理解し、システムが個人・グループ・組織・社会・環境間の関係に及ぼす影響を認識する能力

1. システムアプローチを公衆衛生的問題に応用する際の長所・短所を評価できる。
2. 公衆衛生システムの変更で生じる意図しない結果を同定、説明できる。
3. 政治的・社会経済的政策の変化に伴う地方・国家・国際レベルでの影響を分析できる。
4. 公衆衛生関連の問題やシステムの世界的潮流、相互依存の影響を分析、説明できる。

VIII. 国際通用性

公衆衛生分野の世界の最新の情報を収集・理解し、国際通用言語でコミュニケーションでき、国内外の実践活動についてグローバルな視点で述べる能力

1. 世界の最新の公衆衛生学上の成果や動向を収集、理解できる。
2. 英文で報告書などを作成することができ、国際学会等で発表・討論することができる。
3. 自分の関わる公衆衛生学上の課題についてグローバルな視点で述べることができる。

問題解決型アプローチ

公衆衛生の体系的知識と技能を問題解決の実践に活かす能力を会得するため、問題解決型の課題研究報告書を作成する。その際にはフィールドにおける主体的な活動も重視する。

こうした公衆衛生活動の実践能力や公衆衛生の実務家としての資質をより具体化し、8つのコンピテンシーとして明示化し、教育課程においてその各項の習得を目指す。

問題解決型アプローチは、帝京大学公衆衛生学研究科で目指す問題解決能力を備えた実務を担う高度専門職養成に必要な素養である。課題研究や授業を通じてこのアプローチで問題を考える力を育むことを目指している。問題解決型アプローチは公衆衛生上の問題を発見し、その問題の具体的な原因と結果を考えることから始まる。そして原因と結果の定式化をもとに定量的に問題を解析して問題の程度を把握する。同時に、既存の文献等の情報から当該公衆衛生課題に対する既存の知見を分析する。その中で、自らが取り組む公衆衛生の問題がいかんにして検証されているか否かを把握しておく。さらに問題をとりまく社会的要因や利害関係者（ステークホルダー）を列挙して、問題解決に際して配慮すべき関係者の整理を行う。このような分析を中心としたプロセスの後、問題解決の実践のために解決策の計画を立案する。複数立案された施策についてはその優先順位をつけて実行する。その後、行った施策の評価を行い、次のプロセスにつなげる。こうした一連の実践的プロセスが問題解決型アプローチで、5つのステップ（1）課題形成、（2）問題の分析、（3）解決策立案、（4）解決策実施、（5）評価 に整理している。

(3) 養成人材別の達成すべき能力

高度専門職業人養成という観点から求められる主な養成人材別の達成すべき能力要件は以下のとおりである。

【総括産業医・労働衛生コンサルタントなどの指導的産業医・産業看護職】

単に医療機関から産業現場に場を移した医療活動というのではなく、環境要因が強くかかわり、医療機関とは異なった法律制度や会社組織の論理も深く理解し、組織全体の健康意識を上げる（ヘルシーカンパニーを作る）活動ができる能力を身に付ける。その中には産業保健の高度な専門家である労働衛生コンサルタントの資格を取得する（試験に合格する）だけでなく、産業現場で発生する新たな問題を自ら調査・研究し、その解決ができる能力も含まれる。

【コメディカル部門の管理者】

医療専門分野の視点に加えて、医療・保健の分野を全体的に俯瞰しながら管理できる知識・技能を習得する。

【臨床試験統括責任医師】

臨床試験研究を実施する上で、それに必要な疫学・生物統計学の知識・技能を修得し、実務家として実施可能なレベルでの臨床試験計画書を作成し評価する能力を習得する。

【臨床試験看護師】

臨床試験研究を実施する上で、それに必要な疫学・生物統計学の知識・技能を習得し、試験統括医師が行う臨床試験計画書作成を支援すると同時に、円滑な試験実施のための同意説明や倫理規定を理解し管理業務の推進を図れるコーディネイト能力を習得する。

【生物統計専門家】

生物統計学の実践的知識・技術は勿論のこと、国内の規制や管理体制の知識を習得していることに加えて多国間での治験や臨床試験に対応できるレベルに到達する。

【国際保健の専門家】

国際保健の現状や保健医療制度を理解することに加えて、途上国等の国際保健の現場において、全体的な視野で問題を調査・分析し意思決定するために不可欠となる科学的判断力、マネジメント能力とコミュニケーション技能を習得する。さらに国際保健の実務家として根本を成す多様な価値観、職業倫理や公共哲学の考え方を身に付ける。

【専門知識・能力を持った行政職員】

公正と効率が重視される国内外の行政機関において、自ら情報を収集・解析し、科学的な検討に基づく施策を立案するとともに、その施策を利害関係者と調整する中で実現につなげる能力を身に着ける。

【非政府組織・非営利団体等職員】

公衆衛生の問題に取り組むため、情報を収集・吟味し、科学的根拠を挙げて問題解決に取り組み、現場に適用可能なプロジェクトを計画準備・実行・評価する技能を身に着ける。また、住民から国家レベルにいたるまでの各利害関係者とのコミュニケーション能力を養う。

(4) 行事予定

健康診断	3月28日(木) - 30日(土) 4月 3日(水) 4月 5日(金)
新年度オリエンテーション (履修手続、コンピテンシー基盤型 教育の概要、等)	4月 3日(水)
入学式(日本武道館)	4月 4日(木) 午前
前期授業の期間(a学期、b学期)	4月 5日(金) - 8月15日(木)
課題研究ガイダンス	4月18日(木) 午前
履修届けの提出期限	4月19日(金) (※1)
創立記念日	6月29日(土)
課題研究 テーマ提出期限(※2)	7月 1日(月) - 5日(金) (予定)
課題研究 計画報告会	8月1日(木)
夏季休業期間(※3)	8月16日(金) - 9月16日(月)
後期授業の期間(c学期、d学期)	9月17日(火) - 12月25日(水)
課題研究 中間報告会(※2)	10月24日(木) (予定)
課題研究 最終報告会(※2)	12月26日(木)
実習報告会	2月6日(木)
学位記授与式(日本武道館) (帝京大学グループ卒業式)	3月20日(金)

(※1) 履修変更届けは、各学期内で実施される授業科目ごとに以下ようになる。

- ◇ 前期前半(a学期)：履修届け提出により確定 / 締切日 4月19日(金)
- ◇ 前期後半(b学期)：締切日 6月21日(金)
- ◇ 後期前半(c学期)：締切日 9月27日(金)
- ◇ 後期後半(d学期)：締切日 11月22日(金)
- ◇ 夏期(s学期)：実習科目は原則変更が認められません。
- ◇ 冬期(w学期)：実習科目は原則変更が認められません。

ただし、特別講義は開始一ヶ月前まで変更が可能です。

注) 夏期(実習科目)と冬期(実習科目と特別講義)に関しては、履修届け提出前にアカデミックアドバイザーと十分に相談した上で決定すること。

(※2) 1年コースおよび2年コース2年生が対象となります。なお、課題研究の指導日程、サブグループ指導は、指導教員と相談して個別に設定する。

(※3) 実習科目の多くは夏季休業期間中(s学期)に開講される。履修希望者は実習の授業日程についてアカデミックアドバイザーおよび科目担当責任者と事前に設定する。

(5) 授業科目一覧 (専門職学位課程)

2019年度 公衆衛生学研究科 専門職学位課程 授業科目一覧

科目区分	分野	授業科目の名称	単位数		授業形態	授業時間割				科目責任者	備考
			必修	選択		配当年次	学期	曜日	時限		
専門科目	疫学	01 基礎疫学	4		講義演習	1	a・b	木	3,4	大脇 和浩 教授	
		02 臨床疫学		4	講義演習	1・2	c・d	木	3,4	大脇 和浩 教授	
		03 質的研究		1	講義	1・2	b	水	5	高橋 謙造 教授	
		04 スタディクリティーク		2	演習	1・2	a-d	木	5	大脇 和浩 教授	
		05 リスク科学		1	講義	1・2	d	月	1,2	津田 洋子 講師	
		06 特別講義(疫学Ⅰ～Ⅲ)		1	講義	1・2	w	冬期		Murray Mittleman 客員教授	集中講義
	生物統計学	07 基礎生物統計学	4		講義演習	1	a・b	水	1,2	山岡 和枝 教授	
		08 応用生物統計学		2	講義	1・2	c・d	火	1	山岡 和枝 教授	
		09 データ解析演習		2	演習	1・2	c・d	火	2	松浦 正明 教授	
		10 臨床試験概論		2	講義演習	1・2	c・d	火	3	根本明日香 講師	
		11 社会調査データ解析概論		1	講義	1・2	a	火	5	山岡 和枝 教授	
		12 社会調査データ解析演習		1	演習	1・2	a	火	6	山岡 和枝 教授	
	13 特別講義(生物統計学Ⅰ～Ⅲ)		1	講義	1・2	w	冬期		Garrett Fitzmaurice 客員教授	集中講義	
	社会行動科学	14 健康行動科学概論	2		講義	1	a・b	水	3	石川ひろの 教授	
		15 健康教育学		1	講義	1・2	d	月	1,2	福田 吉治 教授	
		16 社会疫学		1	講義	1・2	d	水	2	福田 吉治 教授	
		17 ヘルスコミュニケーション学		1	講義	1・2	c	水	1,2	石川ひろの 教授	
		18 終末期医療実習		1	実習	1・2	s	個別設定		石川ひろの 教授	
	19 特別講義(社会行動科学Ⅰ～Ⅲ)		1	講義	1・2	w	冬期		Ichiro Kawachi 客員教授	集中講義	
	保健政策・医療管理学	20 保健政策・医療管理学概論	1		講義	1	a	火	3	中田 善規 教授	
		21 ヘルスポリシー概論		1	講義	1	b	水	4	福田 吉治 教授	
		22 医療経済学		2	講義	1・2	b	月	3,4	中田 善規 教授	
		23 医療保障政策論		1	講義	1・2	c	火	4	福田 吉治 教授	
		24 地域保健学		2	講義演習	1・2	b	火	1,2	高橋 謙造 教授	
		25 国際保健学概論		2	講義	1・2	b	火	3,4	井上まり子 准教授	
		26 国際保健学演習		2	講義演習	1・2	c	水	3,4	崎坂香屋子 准教授	
		27 国際母子保健学		1	講義	1・2	b	火	5	高橋 謙造 教授	
		28 国際保健学実習		1	実習	1・2	w	個別設定		高橋 謙造 教授	
		29 ヘルスデータ分析入門		2	講義	1・2	d	月	3,4	福田 吉治 教授	
		30 医療管理学・安全管理学概論		2	講義	1	a	月	3,4	中田 善規 教授	
		31 リーダーシップ・マネジメント論		1	講義	1・2	d	水	1,2	石川ひろの 教授	
		32 医療経営学演習		2	演習	1・2	c	月	3,4,5	中田 善規 教授	
		33 医療管理学実習		1	実習	1・2	s	個別設定		中田 善規 教授	
		34 Healthcare Management		1	講義	1・2	s	夏期		中田 善規 教授	集中講義
		35 Universal Health Coverage & Aging Society		1	講義演習	1・2	s	夏期		井上まり子 准教授	集中講義
		36 特別講義(保健政策・医療管理学Ⅰ～Ⅲ)		1	講義	1・2	w	冬期		Alastair Gray 客員教授	集中講義
	産業環境保健学	37 産業環境保健学概論	1		講義	1	a	火	1	福田 吉治 教授	
		38 産業保健学		2	講義演習	1・2	c	月	1,2	福田 吉治 教授	
		39 環境保健学		2	講義演習	1・2	c・d	水	1,2	津田 洋子 講師	
		40 産業看護マネジメント論		1	講義演習	1・2	s	夏期		福田 吉治 教授	集中講義
		41 産業精神保健学演習		1	講義演習	1・2	s	夏期		福田 吉治 教授	集中講義
		42 産業環境保健学実習		1	実習	1・2	s	個別設定		津田 洋子 講師	
		43 特別講義(産業環境保健学Ⅰ～Ⅲ)		1	講義	1・2	w	冬期		Rose Goldman 客員教授	集中講義
共通科目	44 公衆衛生倫理学	1		講義	1	a	水	4	石川ひろの 教授		
	45 医学基礎・臨床医学入門	2		講義	1	a・b	月	1,2	山本 秀樹 教授		
	46 調査・研究法概論		1	講義	1	a	春期		高橋 謙造 教授	集中講義	
	47 健康医療情報学		1	講義演習	1・2	a	火	2	桑原 恵介 講師		
	48 インターンシップ		1	実習	1・2	s・w	個別設定		井上まり子 准教授		
	49 課題研究	6		演習	1・2	通年	個別設定		各指導教員	実習含む	

(5) 授業時間割 (専門職学位課程)

2019年度 公衆衛生学研究科 専門職学位課程 時間割

曜日	時限	前期		後期		
		前半8週(a学期)		後半8週(d学期)		
		4/5(金)~6/12(水)		11/11(月)~12/25(水)		
月	1	9:00 10:30	医学基礎・臨床医学入門		産業保健学	リスク科学 ^(※1) 健康教育学 ^(※1)
	2	10:45 12:15				
	3	13:05 14:35	医療管理学・ 安全管理学概論	医療経済学	医療経営学演習	ヘルスデータ分析入門
	4	14:50 16:20				
	5	16:35 18:05				
	6	18:20 19:35				
火	1	9:00 10:30	産業環境保健学概論	地域保健学	応用生物統計学	
	2	10:45 12:15	健康医療情報学		データ解析演習	
	3	13:05 14:35	保健政策・医療管理学概論	国際保健学概論	臨床試験概論	
	4	14:50 16:20			医療保障政策論	
	5	16:35 18:05	社会調査データ解析概論	国際母子保健学		
	6	18:20 19:35	社会調査データ解析演習			
水	1	9:00 10:30	基礎生物統計学		環境保健学 ^(※2) ヘルスコミュニケーション学 ^(※2)	環境保健学 ^(※3) リーダーシップマネジメント論 ^(※3)
	2	10:45 12:15				
	3	13:05 14:35	健康行動科学概論		国際保健学演習	社会疫学
	4	14:50 16:20	公衆衛生倫理学	ヘルスポリシー概論		
	5	16:35 18:05		質的研究		
	6	18:20 19:35				
木	1	9:00 10:30				
	2	10:45 12:15				
	3	13:05 14:35	基礎疫学		臨床疫学	
	4	14:50 16:20	スタディクリティーク (※4)			
	5	16:35 18:05				
	6	18:20 19:35				
金	1	9:00 10:30	課題研究・補講		課題研究・補講	
	2	10:45 12:15				
	3	13:05 14:35				
	4	14:50 16:20				
	5	16:35 18:05				
	6	18:20 19:35				

※課題研究(必修)については、2年コースは2年目、1年コースは後期に集中して行う。

(※) 隔週開講

春期(a学期)		
集中	4月初旬	調査・研究法概論
夏期(s学期)		
実習	7月 5	終末期医療実習
		医療管理学実習
集中 講義	9月 (予定)	産業環境保健学実習
		インターンシップ
		Healthcare Management
		Universal Health Coverage & Aging Society
		産業看護マネジメント論
		産業精神保健学演習
冬期(w学期)		
実習	12月	国際保健学実習
集中 講義	1月 (予定)	特別講義(疫学 I~III)
		特別講義(生物統計学 I~III)
		特別講義(社会行動科学 I~III)
		特別講義(保健政策・医療管理学 I~III)
		特別講義(産業環境保健学 I~III)

※ 実習科目は、2月初旬に「実習報告会」で発表をすること

※ 特別講義は年度により内容が異なることがあり、I~IIIのいずれかを開講する。

(5) 授業科目の概要

① 疫学

近年の医療において常にその重要性が指摘される EBM : Evidence Based Medicine (根拠に基づく医療) は、臨床疫学から派生したものであり、過去の疫学的研究等の成果を体系的に利用することで現在の医療行為を評価し、より適切な医療を指向するための技法である。すなわち、適切な医療を目指すためには EBM の技法を用いることが極めて有益であると同時に、一方で EBM を賢明に使いこなすためには土台である臨床疫学の深く幅広い理解が不可欠であると言える。また、医療に関連した知見が証拠 (エビデンス) となるためには、発生した結果として示されることが必要であり、またそれが偶然の結果ではないことを示すためには、集団における結果として示されることが必須である。加えて倫理面での考慮が必要な人間集団での結果の解析による証拠の提示においては、データの収集や解釈における専門家としての高度な技能および正当な注意が求められる。このことは実に疫学の方法論そのものを理論的かつ実践的に学ぶことの重要性を示しており、疫学の専門家のみでなく、公衆衛生に関わるすべての専門領域において基本的な対象認識と問題解決の基礎理論として重要な科目である。

そこで、本科目区分には、「基礎疫学」、「臨床疫学」といった理論講義と共に演習を含む実践的な授業科目を設けている。さらに、「質的研究」、「スタディクリティーク」、「リスク科学」といったより実践的な技法を学ぶ授業科目を設けている。また、海外からの招聘教授による「特別講義 (疫学)」も設けられており国際的な視野での教育機会も設けている。

② 生物統計学

厚生労働省、文部科学省のすすめる臨床研究・治験の活性化の取り組みにおいても指摘があるように、わが国において生物統計学の専門家は圧倒的に不足している。また、臨床試験の実効性を担保するための臨床試験統括医師や臨床試験看護師についても国際的なレベルからは十分な人材が確保できているとは言えない。臨床試験の実効性を担保するためには、専門的な統計手法を駆使し試験計画を立案し試験結果を科学的に解析・評価できる人材、ならびに新薬の承認に関する規制や手続においてガイドラインを遵守しながら臨床試験を統括できる人材、さらには計画書作成や実施運用の面から積極的に支援できる人材の養成が必要となる。

そこで、本科目区分には、「基礎生物統計学」、「応用生物統計学」、「臨床試験概論」、「社会調査データ解析概論」といった理論講義 (「基礎生物統計学」、「臨床試験概論」には演習を含む) の他に、「データ解析演習」、「社会調査データ解析演習」といった演習形式による実践的な授業科目を設けている。また、海外からの招聘教授による「特別講義 (生物統計学)」も設けられており国際的な視野での教育機会も設けている。

③ 社会行動科学

近年、医療現場における患者を中心とするコミュニケーションの問題に起因する公衆衛生上の課題は増加の一途を辿っている。これに対処するためには、医師が診察で患者との関係を築く上でのコミュニケーション能力や、行動科学理論に基づく科学的な判断・指導のための専門的かつ実践的な技術が必要となる。同時に、ヘルスプロモーション (=健康増進: 人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセス) といった、個人の生活行動のみでなく環境整備の双方で相乗効果をもたらすアプローチ手法についての体系的な理解も求められる。

そこで、本科目区分には、「健康行動科学概論」、「健康教育学」、「社会疫学」といった理論講義および演習の他に、「終末期医療実習」といった実習形式による実践的な授業科目を設けている。また、海外からの招聘教授による「特別講義 (社会行動科学)」も設けられており国際的な視野での教育機会も

設けている。

④ 保健政策・医療管理学

近年の自然環境や社会環境の急激な変化に伴って、新型インフルエンザなど新たに顕在化している公衆衛生上の課題は増加かつ複雑化の傾向にあり、保健政策を科学的に判断・立案・実行できる保健行政の専門家や第一線の実務者の必要性が益々高まっている。具体的には、健康危機管理などの緊急時において疫学上の迅速判断・対応ができる、また予防対策においては的確なエビデンスを選択・吟味し適切な健康情報や予防医療の考え方を提示できる高度専門職業人が求められている。すなわち、保健医療政策・公衆衛生活動・予防医学実践への適用にあたっては、EBMの基本的手続きに沿って合理的で高い効果を上げるための専門的な知識と技術が必要となる。同時に、近年のグローバルな社会構造や疾病構造の急激な変化に伴って発生している新たな公衆衛生上の課題に対しては、早急な専門的対応が国際社会から強く求められている。しかしながら国際医療協力において、政策デザイン、行動計画立案、ならびにその遂行まで指導的立場で効果的に推進できる専門家が慢性的に不足している。

さらに、わが国では超高齢社会の進展に伴って医療費が増加の一途をたどる中、医療の質を一定に保ちながら効率化を図るというトレードオフの課題に直面している。このような困難な状況下で個々の患者の方針を検討する時には医療制度の深い知識や医療経済学の方法論が必要となる。

一方で、医療システムのあり方とその管理をめぐる問題に対して、地域を含めた医療体制、医療経営、医療安全、医療の情報化といった視点からの変革とリスクマネジメントの重要性も求められている。例えば、医療構造が複雑化する今日においては、各医療機関で病院評価の基準をクリアするためには医療体制の再構築と科学的経営手法が必要となりここでは病院経営のプロフェッショナルが求められる。また、医療の質を向上させるためには、経営効率化や地域保健を含めた業務連携の標準化、臨床データの有効活用、医療安全の確保等が求められるが、これを実現するための情報基盤を構築・管理できる専門的な人材が必要となるし、また医療スタッフ間の意思疎通の問題解決にあたっては、相手の階層や専門領域などの障壁を超えて有効なコミュニケーションを実現するための専門的な方法論を身に付けておく必要がある。

そこで、本科目区分には、「保健政策・医療管理学概論」、「ヘルスポリシー概論」、「医療管理学・安全管理学概論」、「医療経済学」、「医療保障政策論」、「リーダーシップ・マネジメント論」、「地域保健学」、「国際保健学概論」、「国際母子保健学」、「ヘルスデータ分析入門」、「Healthcare Management」、「Universal Health Coverage & Aging Society」といった理論講義（「地域保健学」、「Universal Health Coverage & Aging Society」には演習を含む）の他に、「医療経営学演習」、「医療管理学実習」（実習先：本学附属病院）、「国際保健学演習」、「国際保健学実習」（海外現地での訪問見学先：国際医療機関、NGO、行政機関、医療機関等）といった演習・実習形式による実践的な授業科目を設けている。また、海外からの招聘教授による「特別講義（保健政策・医療管理学）」も設けられており国際的な視野での教育機会も設けている。

⑤ 産業環境保健学

産業保健については国全体の疾病構造が大きく転換するとともに中高年労働者が増加してきた結果、職域においては感染症に変わって循環器疾患やがんがより大きな問題になってきた。現代における化学プラントや建築現場などの職域で発生する健康障害に対しては、業務起因性の判断といった疫学的検討が求められる。また技術革新、産業構造の変化にともなう作業態様の多様化、心理的ストレスの増大などが無視できない状況となってきている。自殺の原因となる、うつ病では多くの患者が疲れ、不眠以外に、吐き気、動悸といった身体症状を訴え、重症になるケースも多い。逆に体の病気でも心の問題、ストレスで症状を悪化させたり発症を誘発したりする。治療、予防のためには患者の心身両

面から状態を把握する必要がある。そのためには、職場のメンタルヘルスについて科学的根拠に基づく有効な予防法が不可欠である。同時に、産業保健の専門家として関連法規や制度、ならびに衛生管理組織といった実務運営のための専門知識と管理能力も必要とされる。

このような状況に対して、現場で中心となって活動するのは産業医であるが、独立的に実務に対応できるだけの系統的養成が不十分であるのが現状である。作業環境測定士、衛生管理者等の養成に関しても同様のことが言えよう。

一方、環境保健学は、「人間の健康に環境が及ぼす影響」についての学問であり、大気汚染などの環境有害物質から騒音や気温など物理的環境を対象とするが、今日では温暖化現象など地球規模の環境問題とその対策についても取り扱うようになってきている。そのため、有害物質による生体影響の同定や環境防御対策について特定の地域集団だけでなく国際的な枠組みで環境保健対策を計画・実行できる人材が求められている。

そこで、本科目区分には、「産業環境保健学概論」、「産業保健学」、「環境保健学」、「産業看護マネジメント論」、「産業精神保健学演習」、といった理論講義（「産業保健学」、「環境保健学」、「産業看護マネジメント論」、「産業精神保健学演習」には演習を含む）においても、アジア地域での共同研究の事例紹介や科学・物理系関係講座の環境衛生専門家と協同で、環境測定のデザインと測定の実施、環境影響評価と改善計画の立案といった実践目的に沿った内容も含まれている。加えて「産業環境保健学実習」（現場での実習）といった実習形式による実践的な授業科目を設けている。また、産業医出身の学生で希望者に対しては、関連する国家資格（特に、労働衛生コンサルタント）を受験するための養成教育を設けるとともに、作業環境測定士、衛生管理者等に対しても能力と経験に応じて労働衛生コンサルタントへの基礎教育を実施する。

さらに、海外からの招聘教授による「特別講義（産業環境保健学）」も設けられており国際的な視野での教育機会も設けている。

⑥ 共通科目

i 課題研究

国内外の現場で発生する公衆衛生上の諸問題に対して、各々の専門領域で指導的立場として問題解決型の対処ができる、すなわち現場での実践に資する高度専門職業人養成の集大成として課題研究を行う。

到達目標は、講義・演習科目を通じて学んだ知識の体系化を図ることにある。すなわち、各人材養成に沿ったコースワークの後半期間を用いて、より専門的・実務的な研究課題として取り組み、学んだ知識を実践の場に還元できる能力を身に付けるものである。この高度専門職業人に資する実務適応能力を身に付けるため、プラクティカルな要素が有効であると考え、課題研究の期間内に学習手段の一つとして短期間の現場実習、現場見学、専門家（指導教員）との協働、フィールドワーク、シミュレーションワーク等を含めるものとする。

したがって、課題研究を担当する研究指導教員により特定の研究課題について個別に研究の実践、指導がなされ、現地でのフィールドワーク、調査、情報収集、分析等を経て課題研究報告書を作成する。成績評価については、この報告書を審査して決定される。

課題研究の期間中に特定の調査や分析等の作業を行った場合には、調査結果や分析結果も含めて審査される。また、短期の実習等に参加した場合には実習報告書や実習先の評価も審査の対象となる。いずれの場合においても、課題研究達成までのプロセスも審査の対象となる。

なお、課題研究の指導方法、発表スケジュール、評価内容等については、学期中の適切な時期に院生向けに別途ガイダンスを実施する。

ii 公衆衛生倫理学

公衆衛生の現場において意思決定を行う際に必要となる以下のような公衆衛生倫理の基本的な知識・考え方を学ぶ。公衆衛生領域の政策決定や臨床現場で必要となる倫理的判断の基礎について学ぶとともに、ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言といった生命倫理と医の倫理に関する規範の意味やその歴史的流れをふまえながら、患者の基本的権利について理解する。真実の告知、インフォームド・コンセント、パターンリズム、死の受容、安楽死、尊厳死などの具体的問題に対しても事例を通じた討論を行う。さらに医師法や医療法といった関連する医事法制を整理し、守秘義務、応召義務、医学的無益性、医療資源の配分、メタ倫理といった様々な倫理的問題についても学ぶ。

これらは、治験等の臨床試験や病院の管理等、広く保健医療の現場での判断基準として不可欠な要素であるため、5つの科目区分とは独立した共通科目として設定する。

iii 医学基礎・臨床医学入門

臨床医学の入門となる必須事項を適切に理解するための講義をする。医療系出身者以外の学生への配慮から、まず人体の構造と機能について理解するため、細胞レベルから臓器レベルに至るまでの解剖学、生化学、生理学など基礎医学全般を学ぶ。そうした基礎医学の学習の中で「病気」と「健康」を分ける根拠は何であるか、個人と集団それぞれの見地からアプローチする。臨床医学は、消化器、循環器、呼吸器、腎・泌尿器、神経・筋、内分泌・代謝、メンタルヘルス、免疫・アレルギー、感染症、血液、悪性新生物、中毒の各分野に分け、各種疾患を理解するための基本的事項を中心として、病気の成り立ちを理解するため重要な病態生理、病気の診断に必要な各種検査の原理や意義、最新の治療技術などについて学ぶ。

iv 調査・研究法概論

帝京大学出身の MPH、DrPHホルダーが共通して身につけておくべき、業務効率化の手法、調査・研究法の基礎（Input：情報の入手・管理法、情報の分析法、Output：情報の表出法）について習得することを目的とする。加えて、本学の特徴である、問題解決型アプローチの実例についても紹介する。効率的かつ確実な業務・研究の取り回しは、仕事の成果を左右する。このような理解の上に、幅広い視点から調査・研究法の基礎を学び、実践できることを目標とする。

v 健康医療情報学

公衆衛生専門家は、様々な背景を持つ関係者に対して、最新の健康・医療情報について信頼性を踏まえてわかりやすく伝えることが求められる。本講義では、公衆衛生専門家として健康・医療情報を取り扱うために求められる知識・スキルについて、講義形式に基づいて学ぶとともに、グループワークによる演習形式にて、実際に健康・医療情報を収集し、批判的に情報を吟味し、信頼性を判断したうえで、他人にわかりやすく伝えるためのプレゼンテーションを行うことで、健康・医療情報を専門家として取り扱うためのスキルを身につける。

vi インターンシップ

インターンシップとは、学生が在学中に、国際機関、行政機関、企業・団体等において自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行うことを指す。これら業務に参加することにより、講義の中で学んだ知識を活かし、より実践的な問題解決能力を高め、公衆衛生の専門職にふさわしい素養（コンピテンシー）を身につけることを目的とする。また、実務の現場において公衆衛生の基本的な実務（地域や職場の理解、チームでの勤務、プロジェクト管理、各方面へのコミュニケーション、モニタリング能力など、）の実践能力を向上させることも目的としている。

⑦ 特別講義

本学の欧米提携校（米国ハーバード大学、英国オックスフォード大学、英国ケンブリッジ大学、英国ダラム大学）より各分野の世界的権威である教授陣5名を招聘し専門領域ごとに「特別講義」（毎年1月に集中講義形式で開催）を設定する。集中講義としている理由は、特定の期間にまとめて各専門領域の海外の最新事情や最先端の知識を効率的に学習できる利便性を重視したためである。また、毎年1月に設定している理由としては、公衆衛生学について一通りの知識を習得した後にさらなる見識を深めるといった学習プロセスを提供するためである。

この特別講義は全て英語で実施されるが、本学の教員らが講義のポイントの解説や課題演習等で学生の理解をサポートするための補講が設けられる。さらに、英語力に自信のない学生や専門領域のターミнологиを理解していない学生を対象に、希望者があれば英語力養成を目的とした事前の課外講座を開設する。

(6)カリキュラムマップ(学位授与方針と開講科目との対応関係)

(公衆衛生学研究科 専門職学位課程)

ディプロマポリシー (DP)	
公衆衛生学研究科専門職学位課程は、国内外の現場で発生する公衆衛生上の諸問題に対して専門領域ごとに指導的立場で問題解決ができる高度専門職業人の養成を目指している。従って、高度専門職業人養成という観点から以下のような能力を身につけ、かつ2年コースの場合は2年以上、1年コースの場合は1年以上在学し、課題研究報告書の審査に合格し、所定の単位を修めた者に対して学位を授与する。	
DP1	公衆衛生の5つのコア領域(疫学、生物統計学、社会行動科学、保健政策・医療管理学、産業環境保健学)の基本的内容を理解している。
DP2	環境・社会との関わりから健康事象を理解し、健康問題に包括的な視点をもって対処できる専門的知識・技術・態度を習得する。特に今日の医学・医療や人々の健康を取り巻く状況の変化を理解し、実際の現場で対処できる専門的な技術と指導力を有している。
DP3	集団を対象とした健康事象の把握手法、および因果関係推定の技法であり、根拠に基づく医療(EBM: Evidence Based Medicine)に必須である疫学を修得することにより、科学的根拠に基づく医療や公衆衛生活動を実践できる専門的な技術と指導力がある。
DP4	予防、診断・治療、社会復帰に係わる社会的取組み、諸システムを体系的に理解し、それを公衆衛生の実践に適用できる専門的な技術と指導力を有している。
DP5	身体的・心理的・社会的に弱い状況におかれた人々の立場を理解したうえで、予防、診断・治療、社会復帰に係わる社会的取組み、諸システムを体系的に把握し、それを公衆衛生の実践に適用できる専門的な技術と指導力がある。
DP6	対象となる活動の場が国内外の如何を問わず、公衆衛生の課題についてグローバルな 視点を備えて事象の理解ができる。
DP7	研究科で定めた専門職学位課程に必要なコンピテンシー(別記)を備えている。

科目区分	分野	科目名	単位		配当年次	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
			必修	選択								
専 門 科 目	疫学	基礎疫学	4		1	◎	○	◎	○	△	△	○
		臨床疫学		4	1・2	○	○	◎	○	△	△	△
		質的研究		1	1・2	○	○	○	◎	○	△	△
		スタディクリティーク		2	1・2	○	○	◎	○	△	△	△
		リスク科学		1	1・2	○	◎	○	◎	○	△	◎
		特別講義(疫学Ⅰ～Ⅲ)		1	1・2	◎	○	◎	△	○	◎	○
	生物統計学	基礎生物統計学	4		1	◎	◎	○	○	○	△	○
		応用生物統計学		2	1・2	○	○	◎	○	△	△	△
		データ解析演習		2	1・2	○	○	◎	○	△	△	△
		臨床試験概論		2	1・2	○	○	◎	○	△	△	△
		社会調査データ解析概論		1	1・2	○	○	◎	○	○	△	△
		社会調査データ解析演習		1	1・2	○	○	◎	○	○	△	△
	社会行動科学	特別講義(生物統計学Ⅰ～Ⅲ)		1	1・2	◎	◎	○	○	○	◎	○
		健康行動科学概論	2		1	◎	◎	△	○	○	△	○
		健康教育学		1	1・2	○	○	○	○	○	△	△
		社会疫学		1	1・2	○	○	○	○	◎	△	△
		ヘルスコミュニケーション学		1	1・2	○	○	○	◎	◎	△	◎
	保健政策・医療管理学	終末期医療実習		1	1・2	○	○	△	○	◎	△	○
		特別講義(社会行動科学Ⅰ～Ⅲ)		1	1・2	◎	◎	○	○	○	◎	○
		保健政策・医療管理学概論	1		1	◎	◎	○	○	○	△	○
		ヘルスポリシー概論		1	1	○	○	○	◎	○	△	○
		医療経済学		2	1・2	○	○	○	◎	△	△	△
		医療保障政策論		1	1・2	○	○	○	◎	○	△	○
		地域保健学		2	1・2	○	○	○	○	◎	△	△
		国際保健学概論		2	1・2	△	○	△	○	◎	◎	△
		国際保健学演習		2	1・2	△	○	○	○	◎	◎	○
		国際母子保健学		1	1・2	△	○	○	○	◎	◎	△
		国際保健学実習		1	1・2	△	○	○	○	◎	◎	○
		ヘルスデータ分析入門		2	1・2	△	○	◎	○	△	△	△
		医療管理学・安全管理学概論		2	1	○	○	○	◎	△	△	◎
		リーダーシップ・マネジメント論		1	1・2	○	○	○	◎	◎	△	◎
		医療経営学演習		2	1・2	△	○	○	◎	△	△	○
	医療管理学実習		1	1・2	△	○	○	◎	△	△	○	
	Healthcare Management		1	1・2	○	◎	○	○	△	◎	△	
	Universal Health Coverage & Aging Society		1	1・2	○	◎	○	○	○	◎	△	
	特別講義(保健政策・医療管理学Ⅰ～Ⅲ)		1	1・2	◎	◎	○	○	○	◎	○	
産業環境保健学	産業環境保健学概論	1		1	◎	◎	○	○	○	△	○	
	産業保健学		2	1・2	○	◎	○	○	○	△	△	
	環境保健学		2	1・2	○	◎	○	○	○	△	△	
	産業看護マネジメント論		1	1・2	△	○	○	◎	○	△	◎	
	産業精神保健学演習		1	1・2	△	○	○	○	◎	△	○	
	産業環境保健学実習		1	1・2	△	○	△	○	◎	△	○	
	特別講義(産業環境保健学Ⅰ～Ⅲ)		1	1・2	◎	◎	○	○	○	◎	○	
共 通 科 目	公衆衛生倫理学	1		1	△	○	○	○	◎	△	◎	
	医学基礎・臨床医学入門	2		1	△	◎	○	○	○	△	△	
	調査・研究法概論		1	1	△	◎	○	○	○	△	△	
	健康医療情報学		1	1・2	△	◎	◎	○	△	△	△	
	インターンシップ		1	1・2	△	◎	◎	◎	◎	○	○	
	課題研究	6		1・2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	

注) ◎関連大、○関連中、△関連小

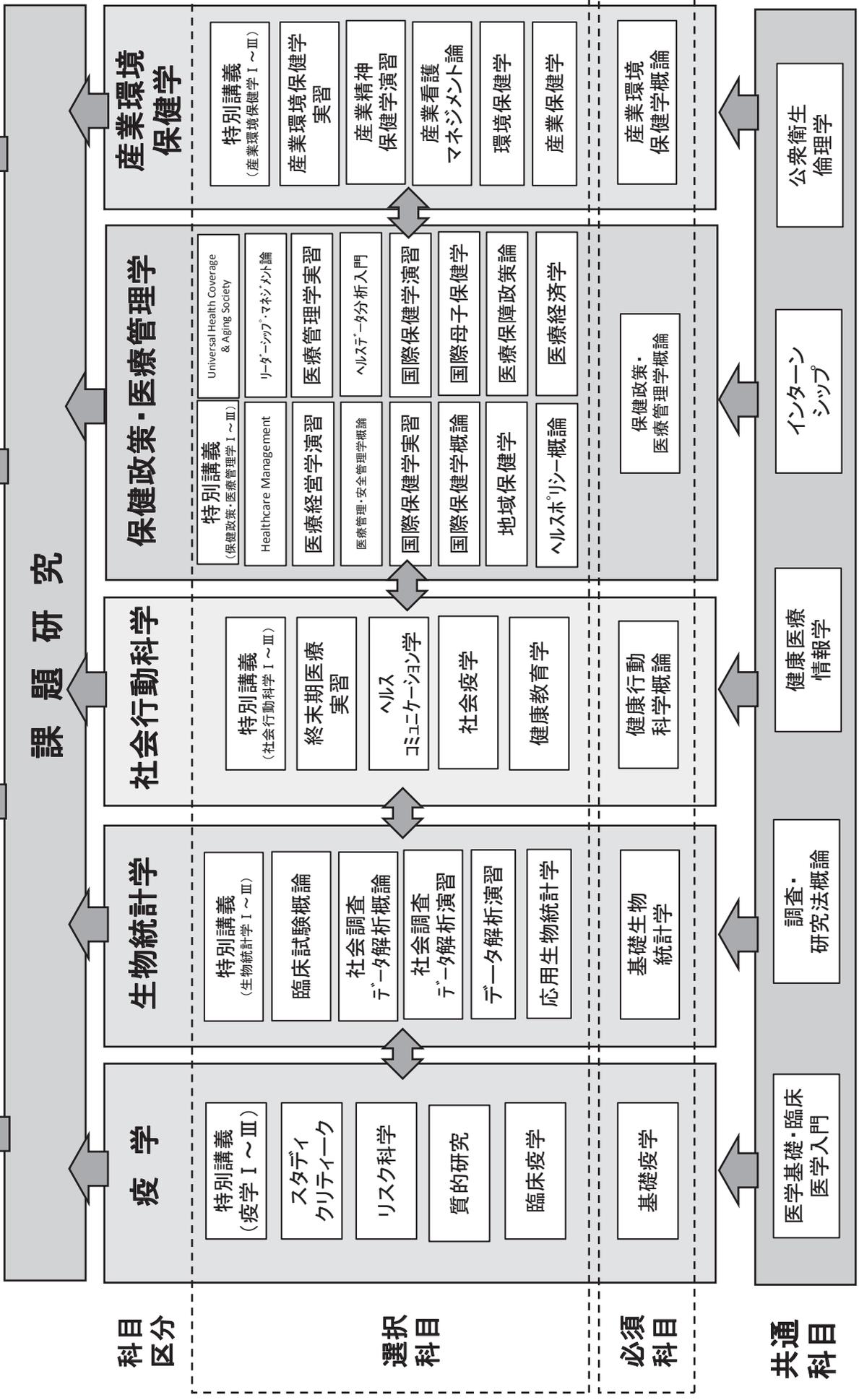
IMPH

DP 1・2
専門的知識・技術・態度

DP 3
EBM・科学的医療実践

DP 4・5
社会的取組・システム

DP 6
総合的医学・全人的医療



(7) 教員一覧 (専門職学位課程)

◆専任教員

氏名	役職	科目区分	授業科目
福田 吉治	教授 (研究科長)	疫学	臨床疫学
			質的研究
			リスク科学
		社会行動科学	健康行動科学概論
			健康教育学
			社会疫学
		保健政策・医療管理学	保健政策・医療管理学概論
			ヘルスポリシー概論
			医療保障政策論
			ヘルスデータ分析入門
		産業環境保健学	産業環境保健学概論
			産業保健学
			産業看護マネジメント論
			産業精神保健学演習
			産業環境保健学実習
共通	公衆衛生倫理学		
	医学基礎・臨床医学入門		
石川ひろの	教授 (実)	社会行動科学	健康行動科学概論
			ヘルスコミュニケーション学
			終末期医療実習
	保健政策・医療管理学	リーダーシップ・マネジメント論	
	共通	公衆衛生倫理学	
大脇 和浩	教授	疫学	基礎疫学
			臨床疫学
			スタディクリティーク
		共通	医学基礎・臨床医学入門
高橋 謙造	教授 (実)	疫学	臨床疫学
			質的研究
		保健政策・医療管理学	保健政策・医療管理学概論
			地域保健学
			国際保健学概論
			国際保健学演習
			国際母子保健学
			国際保健学実習
		Universal Health Coverage & Aging Society	
		産業環境保健学	産業環境保健学実習
共通	医学基礎・臨床医学入門		
	調査・研究法概論		
中田 善規	教授 (実)	保健政策・医療管理学	保健政策・医療管理学概論
			医療経済学
			医療管理学・安全管理学概論
			リーダーシップ・マネジメント論
			医療経営学演習
			医療管理学実習
		Healthcare Management	
共通	医学基礎・臨床医学入門		
松浦 正明	教授	生物統計学	基礎生物統計学
			応用生物統計学
			データ解析演習
			臨床試験概論

氏名	役職	科目区分	授業科目
山岡 和枝	教授	疫学	基礎疫学
		生物統計学	基礎生物統計学
			応用生物統計学
			データ解析演習
			社会調査データ解析概論
			社会調査データ解析演習
山本 秀樹	教授 (実)	保健政策・医療管理学	保健政策・医療管理学概論
			国際保健学概論
		共通	医学基礎・臨床医学入門
井上まり子	准教授	社会行動科学	社会疫学
		保健政策・医療管理学	保健政策・医療管理学概論
			国際保健学概論
			Universal Health Coverage & Aging Society
		共通	公衆衛生倫理学
			調査・研究法概論
インターンシップ			
崎坂香屋子	准教授 (実)	保健政策・医療管理学	保健政策・医療管理学概論
			国際保健学概論
			国際保健学演習
		共通	調査・研究法概論
桑原 恵介	講師	疫学	基礎疫学
			臨床疫学
			スタディクリティーク
		産業環境保健学	産業保健学
		共通	調査・研究法概論
			健康医療情報学
津田 洋子	講師 (実)	疫学	リスク科学
		産業環境保健学	産業環境保健学概論
			産業保健学
			環境保健学
			産業環境保健学実習
		共通	調査・研究法概論
根本明日香	講師 (実)	生物統計学	基礎生物統計学
			応用生物統計学
			データ解析演習
			臨床試験概論
	共通	調査・研究法概論	
加藤 美生	助教	社会行動科学	健康教育学
			ヘルスコミュニケーション学
		保健政策・医療管理学	Healthcare Management
堀内 清華	助教	産業環境保健学	産業保健学
		疫学	臨床疫学
		保健政策・医療管理学	国際保健学概論

※(実) 実務家教員

◆他学部 (兼担)

氏名	役職	科目区分	授業科目
菊谷 昌浩	教授	疫学	スタディクリティーク
内田 俊也	教授	生物統計学	臨床試験概論
		共通	医学基礎・臨床医学入門
渡邊 清高	准教授	保健政策・医療管理学	医療経営学演習
松田 彩子	助教	生物統計学	基礎生物統計学
			データ解析演習
大嶽 浩司	客員教授	保健政策・医療管理学	医療経営学演習

◆非常勤教員

氏名	役職	科目区分	授業科目
Murray Mittleman	客員教授	疫学	特別講義（疫学Ⅰ～Ⅲ）
Garrett Fitzmaurice	客員教授	生物統計学	特別講義（生物統計学Ⅰ～Ⅲ）
Ichiro Kawachi	客員教授	社会行動科学	特別講義（社会行動科学Ⅰ～Ⅲ）
Alastair Gray	客員教授	保健政策・医療管理学	特別講義（保健政策・医療管理学Ⅰ～Ⅲ）
Rose Goldman	客員教授	産業環境保健学	特別講義（産業環境保健学Ⅰ～Ⅲ）
井口 直樹	客員教授	保健政策・医療管理学	保健政策・医療管理学概論 医療保障政策論
石崎 達郎	客員教授	保健政策・医療管理学 共通	地域保健学 インターンシップ 課題研究
河野 啓子	客員教授	産業環境保健学	産業看護マネジメント論
小木 和孝	客員教授	産業環境保健学	産業保健学
丹後 俊郎	客員教授	生物統計学	基礎生物統計学 応用生物統計学
谷原 真一	客員教授	共通	課題研究
中尾 睦宏	客員教授	社会行動科学	健康行動科学概論
野村 恭子	客員教授	疫学 共通	特別講義（疫学Ⅰ～Ⅲ） 課題研究
矢野 榮二	客員教授	疫学 保健政策・医療管理学	基礎疫学 スタディクリティーク リスク科学 国際保健学概論
吉川 徹	客員准教授	産業環境保健学	産業保健学
猪股 久美	非常勤講師	産業環境保健学	産業看護マネジメント論
奥原 剛	非常勤講師	社会行動科学	ヘルスコミュニケーション学
神山 宣彦	非常勤講師	産業環境保健学	環境保健学
小玉 千織	非常勤講師	保健政策・医療管理学	国際保健学概論
小林 廉毅	非常勤講師	保健政策・医療管理学	医療経済学
近藤 久禎	非常勤講師	保健政策・医療管理学	ヘルスポリシー概論
坂元 晴香	非常勤講師	保健政策・医療管理学	国際保健学演習
渋谷 健司	非常勤講師	保健政策・医療管理学	国際保健学概論
白山 裕士	非常勤講師	社会行動科学	終末期医療実習
杉下 智彦	非常勤講師	保健政策・医療管理学	国際保健学演習
宋 裕姫	非常勤講師	産業環境保健学	産業保健学
高辻(戸谷)由布子	非常勤講師	産業環境保健学	産業精神保健学演習
瀧本 禎之	非常勤講師	共通	公衆衛生倫理学
竹内由利子	非常勤講師	産業環境保健学	産業精神保健学演習
田村 桂一	非常勤講師	保健政策・医療管理学	医療経営学演習
坪倉 正治	非常勤講師	保健政策・医療管理学	地域保健学
磨田百合子	非常勤講師	産業環境保健学	産業看護マネジメント論 産業精神保健学演習
中澤 栄輔	非常勤講師	共通	公衆衛生倫理学
中澤 達	非常勤講師	保健政策・医療管理学	医療経営学演習
中原 浩彦	非常勤講師	産業環境保健学	産業保健学 環境保健学
成松 宏人	非常勤講師	保健政策・医療管理学	医療経営学演習
錦織 信幸	非常勤講師	保健政策・医療管理学	国際保健学概論
野田信一郎	非常勤講師	保健政策・医療管理学	地域保健学
橋本 英樹	非常勤講師	社会行動科学 保健政策・医療管理学	社会疫学 保健政策・医療管理学概論
長谷川貴大	非常勤講師	生物統計学	臨床試験概論
町田 宗仁	非常勤講師	保健政策・医療管理学	Universal Health Coverage & Aging Society
宮本 俊明	非常勤講師	産業環境保健学	産業環境保健学実習
村山 洋史	非常勤講師	社会行動科学	社会疫学
山本 真	非常勤講師	保健政策・医療管理学	地域保健学
吉川 悦子	非常勤講師	産業環境保健学	産業精神保健学演習
吉見 逸郎	非常勤講師	保健政策・医療管理学	ヘルスポリシー概論

(8) 履修の手引き

1. 履修の申込みと変更の届け出等

(1) 履修の申込み

大学院生は毎年、年度始めにアカデミックアドバイザー（AA）のアドバイスを受けて、その年度内に履修を希望する科目を選び、所定の用紙（履修届）で受講を申し込むことが必要である。

アカデミックアドバイザーに関しては、「17. アカデミックアドバイザー（AA）／28頁」を参照のこと。

(2) 履修科目の変更

履修科目を変更する場合（年度始めに受講申請した科目の受講を取り止める場合、および、新たな科目の履修を希望する場合）には、アカデミックアドバイザーと相談して、所定の用紙（履修科目変更届）で届け出を行う必要がある。なお、年次途中に新たな科目の履修を希望する場合には、その科目の履修が可能かどうか、科目責任者に事前に問い合わせる（すでに定員を満たしている場合や、希望者がおらず講義が予定されていない場合等がありえる）。

(3) 課題研究について

大学院生は指定される研究指導教員の指導のもと、課題研究報告書をまとめ、その成果を発表する（中間報告会、最終報告会）。その成果は、課題研究報告書（修士論文に該当）という形で執筆する。取り組むテーマやその具体的な内容については、指導教員とよく相談し、またその指導を受ける。テーマ決定後は、所定の期日までにその旨の届け出を行う必要がある。

(4) 休学・コースの変更について

在学中に一身上の都合で、休学あるいはコース変更（1年コースから2年コースに変更）を希望する場合、アカデミックアドバイザーに相談の上、所定の用紙にて届け出を行う。

※ 上記（1）～（4）の届け出の提出先は事務部教務課（大学院担当）である。

(5) 科目の聴講について

実習を除くすべての科目で単位履修を目的とせず聴講として講義を受けることができる。但し、科目責任者の許可を事前に求めること。

2. 授業科目の履修

【2年コース】

(1) 履修の概略

医療系学部出身者（※1）	原則として、1年目に必修科目と専門科目（選択科目）を履修し、2年目は残りの専門科目（選択科目）の履修と課題研究に集中する。
非医療関係学部出身者	原則として、1年目に「医学基礎・臨床医学入門」（必修科目）を含む必修科目と専門科目（選択科目）を履修し、2年目は残りの専門科目（選択科目）の履修と課題研究に集中する。

（※1）医療系国家資格（医師、歯科医師、獣医師、薬剤師、看護師、保健師、助産師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、臨床工学技士、等）の各免許を取得するための所定の課程を修了した者、その他研究科委員会で認めた者。

(2) 修了要件

必修科目8科目21単位（「課題研究」6単位含む）ならびに選択科目11単位以上、合計32単位以上の取得が求められる。「課題研究」については、公衆衛生上の問題解決に必要な能力・資質（専門職学位課程のコアコンピテンシー／4頁参照）を有していると認められ、かつ最終報告書の審査に合格すれば修了要件が満たされる。修了要件を満たしたものに「公衆衛生学修士（専門職）」の学位を授与する。

なお、2年コースの在学期間は4年を超えることはできない。また、履修科目の登録の上限は、年間32単位までである。ただし、成績優秀者には、年間32単位を超えた履修を認めることがある。

基礎疫学（演習を含む）	4単位	必修
基礎生物統計学（演習を含む）	4単位	必修
健康行動科学概論	2単位	必修
保健政策・医療管理学概論	1単位	必修
産業環境保健学概論	1単位	必修
公衆衛生倫理学	1単位	必修（共通科目）
医学基礎・臨床医学入門（※1）	2単位	必修（共通科目）
課題研究（※2）	6単位	必修（共通科目）

（※1）医療系学部出身者については、履修時に「既修得単位認定」の申請をすること。

（※2）課題研究は2年次で履修登録を行う。

注意 2019年度入学以外の者は、入学年度の修了要件を確認のこと。

【1年コース】

(1) 履修の概略

医療系学部出身者（※1）	前期に必修科目と専門科目（選択科目）を履修し、後期は残りの専門科目（選択科目）と課題研究に集中する。実習科目については、夏季休業期間等を活用して集中的に履修する。
非医療関係学部出身者	前期に「医学基礎・臨床医学入門」（必修科目）を含む必修科目と専門科目（選択科目）を履修し、後期は残りの専門科目（選択科目）と課題研究に集中する。実習科目については、夏季休業期間を活用して集中的に履修する。

（※1）医療系国家資格（医師、歯科医師、獣医師、薬剤師、看護師、保健師、助産師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、臨床工学技士、等）の各免許を取得するための所定の課程を修了した者、その他研究科委員会で認めた者。

(2) 修了要件

必修科目8科目21単位（「課題研究」6単位含む）ならびに選択科目11単位以上、合計32単位以上の取得が求められる。「課題研究」については、公衆衛生上の問題解決に必要な能力・資質（専門職学位課程のコアコンピテンシー／4頁参照）を有していると認められ、かつ最終報告書の審査に合格すれば修了要件が満たされる。修了要件を満たしたものに「公衆衛生学修士（専門職）」の学位を授与する。

なお、1年コースの在学期間は2年を超えることはできない。また、履修科目の登録の上限は、年間40単位までである。ただし、成績優秀者には、年間40単位を超えた履修を認めることがある。

基礎疫学（演習を含む）	4単位	必修
基礎生物統計学（演習を含む）	4単位	必修
健康行動科学概論	2単位	必修
保健政策・医療管理学概論	1単位	必修
産業環境保健学概論	1単位	必修
公衆衛生倫理学	1単位	必修（共通）
医学基礎・臨床医学入門（※1）	2単位	必修（共通）
課題研究	6単位	必修（共通）

（※1）医療系学部出身者については、履修時に「既修得単位認定」の申請をすること。

3. 成績評価および GPA 制度

成績評価については、試験・レポート等（筆記試験・口述試験・実技試験・レポート・発表内容）を中心として評価するが、科目によっては講義への参加（出席・討論への参加）等の学習状況等を加味して評価する。なお、再試験・レポート再提出の場合は減点の対象とする。学外の実習に参加した場合には、実習先の外部評価も成績評価に反映させる。

成績評価制度として、GPA（Grade Point Average）制度を導入している。この制度の導入の趣旨は、1.キャンパスとして統一した基準を作成すること、2.公平性に優れた基準であること、3.国際的に通用する基準であることとし、学生諸君の学修の成果を、GPA という客観的な数値で評価するものである。

また、この制度は、欧米の大学で採用している成績評価制度に概ね準拠しており、海外留学、海外の大学院進学、外資系企業への就職等に際し、学力を証明する指標として、海外でも通用する成績評価制度となっています。

（1）成績等の表示および成績評価基準

区分	評価	GPA	成績評価基準	評価内容	(英文内容)
合格	S	4.0	100～90点	特に優れた成績を表す	(Excellent)
	A	3.0	89～80点	優れた成績を表す	(Good)
	B	2.0	79～70点	妥当と認められる成績を表す	(Satisfactory)
	C	1.0	69～60点	合格と認められる最低限の成績を表す	(Pass)
不合格	D	0.0	59点以下	合格と認められる最低限の成績に達していないことを表す	(Failure)
対象外	N	—	—	他大学等で修得した科目を本学の単位として認定したことを表す (既修得単位認定)	(Credits Transferred)

（2）GPA の算出方法

$$\frac{4.0 \times S \text{ の修得単位数} + 3.0 \times A \text{ の修得単位数} + 2.0 \times B \text{ の修得単位数} + 1.0 \times C \text{ の修得単位数}}{\text{修了要件単位数における総履修登録単位数 (D の単位数を含む)}}$$

GPA スコアは 2.5 以上を確保することが望ましく、1.0 以下の者には退学勧告をする場合があります。

（3）成績評価に対する質問・異議申出

1. 成績評価に対して質問がある場合は当該科目の担当教員（科目責任者）に質問をする。
2. 成績評価に対して異議がある場合は内容および理由をできる限り詳細に記入し（様式任意）事務部教務課大学院担当まで提出する。
3. 成績評価に対しての質問・異議申出は成績発表後の 2 週間以内まで受付ける。期間外またはやむを得ない事由で成績通知書を受領しなかった場合も、期間の延長は認めない。

4. 海外提携大学との交流及び留学支援

(1) ハーバード公衆衛生大学院の正規科目の一部受講免除

公衆衛生学専攻（専門職学位課程）では、ハーバード公衆衛生大学院（HSPH）への留学を希望する学生への支援策として、HSPH カリキュラムのコアコース免除の可能性を提供している。但し、その場合には、公衆衛生学専攻（専門職学位課程）の正式カリキュラムである「特別講義」の修了者となり、且つ、特別講義の講師である HSPH 教員にその旨を正式に願い出る手続きが必要となる。これは、HSPH の該当科目の一部に相当する単位を公衆衛生学専攻（専門職学位課程）で取得しているので、一部の講義の受講を免除してもらうことを願い出るというものである。

ちなみに、特別講義の単位認定は、特別講義の講師の評価を最重要視し、最終的に公衆衛生学専攻（専門職学位課程）の研究科委員会にて最終決定する。

(2) 成績優秀者に対する留学推薦

成績優秀者に対しては本人が留学を希望する場合、一定の選考基準に基づきハーバード大学公衆衛生大学院等に推薦し、そこでの勉学・研究・学位取得を援助するシステムを準備している。以下の要件をおおよその基準として、研究指導教員等との協議を経て研究科長による推薦を行う。

(3) フィリピン大学マニラ校の単位互換制度

フィリピン大学マニラ校との学術提携に基づき、同校との単位互換制度を2018年度より開始した。フィリピン大学マニラ校で取得した単位を本学の単位として認める制度であり、研究科での承認後に渡航と単位認定を決定する。特に、現地の地域保健実習（例年5-6月に開催）の参加を推奨しており、課題研究、国際保健実習の一環として行うことを想定している。

2019年度 公衆衛生学研究科 履修届

専門職学位課程

提出日 2019年4月 日

学籍番号

アカデミックアドバイザー

学生氏名

職位 氏名

科目区分	分野	Code	number	科目名	単位数		登録	登録単位	特記事項
					必修	選択			
専門科目	疫学	EPI	201	基礎疫学	4			0	
		EPI	221	臨床疫学		4		0	
		EPI	241	質的研究		1		0	
		EPI	301	スタディクリティーク		2		0	
		EPI	251	リスク科学		1		0	
		EPI	401~403	特別講義(疫学Ⅰ~Ⅲ)		1		0	I~Ⅲいずれかを開講
	生物統計学	BIO	201	基礎生物統計学	4			0	
		BIO	211	応用生物統計学		2		0	
		BIO	301	データ解析演習		2		0	
		BIO	221	臨床試験概論		2		0	
		BIO	241	社会調査データ解析概論		1		0	
		BIO	321	社会調査データ解析演習		1		0	
	社会行動科学	BIO	401~403	特別講義(生物統計学Ⅰ~Ⅲ)		1		0	I~Ⅲいずれかを開講
		HBS	201	健康行動科学概論	2			0	
		HBS	211	健康教育学		1		0	
		HBS	212	社会疫学		1		0	
		HBS	213	ヘルスコミュニケーション学		1		0	
		HBS	310	終末期医療実習		1		0	
	保健政策・医療管理学	HBS	401~403	特別講義(社会行動科学Ⅰ~Ⅲ)		1		0	I~Ⅲいずれかを開講
		HPM	203	保健政策・医療管理学概論	1			0	
		HPM-POL	251	ヘルスポリシー概論		1		0	
		HPM-BIZ	211	医療経済学		2		0	
		HPM-BIZ	212	医療保障政策論		1		0	
		HPM-CH	241	地域保健学		2		0	
		HPM-GH	231	国際保健学概論		2		0	
		HPM-GH	321	国際保健学演習		2		0	
		HPM-GH	241	国際母子保健学		1		0	
		HPM-GH	371	国際保健学実習		1		0	
		HPM-INF	231	ヘルスデータ分析入門		2		0	
		HPM-BIZ	213	医療管理学・安全管理学概論		2		0	
		HPM-BIZ	214	リーダーシップ・マネジメント論		1		0	
		HPM-BIZ	301	医療経営学演習		2		0	
		HPM-BIZ	351	医療管理学実習		1		0	
		HPM-POL	411	Healthcare Management		1		0	
		HPM-BIZ	421	Universal Health Coverage & Aging Society		1		0	
		HPM	401~403	特別講義(保健政策・医療管理学Ⅰ~Ⅲ)		1		0	I~Ⅲいずれかを開講
産業環境保健学		OEH	201	産業環境保健学概論	1			0	
		OEH	221	産業保健学		2		0	
	OEH	211	環境保健学		2		0		
	OEH	241	産業看護マネジメント論		1		0		
	OEH	301	産業精神保健学演習		1		0		
	OEH	351	産業環境保健学実習		1		0		
	OEH	401~403	特別講義(産業環境保健学Ⅰ~Ⅲ)		1		0	I~Ⅲいずれかを開講	
共通科目	ID	201	公衆衛生倫理学	1			0		
	ID	101	医学基礎・臨床医学入門	2			0	* 既修得単位認定	
	ID	211	調査・研究法概論		1		0		
	ID	221	健康医療情報学		1		0		
	ID	351	インターンシップ		1		0		
	ID	500	課題研究	6			0		
※提出は4月19日(金)まで【提出ボックスNo.39】								総単位数	0

研究科長	教務部長

履修科目変更届 (願)

20 年 月 日

公衆衛生学研究科長 殿

学籍番号 _____

学生氏名 _____ (印)

アカデミックアドバイザー

職 位 _____

氏 名 _____ (印)

下記のとおり履修科目の変更を申請いたします。

科目区分	科目名称	単位数	変更後 (該当に○印)
1			履修 ・ 取り消し
2			履修 ・ 取り消し
3			履修 ・ 取り消し
4			履修 ・ 取り消し
5			履修 ・ 取り消し
6			履修 ・ 取り消し
7			履修 ・ 取り消し
8			履修 ・ 取り消し

事務部記入欄

受付日:

処理日:

--	--

公衆衛生学研究科 公衆衛生学専攻 専門職学位課程

(9) アカデミックアドバイザー (AA)

公衆衛生学専攻（専門職学位課程）では、学生の入学時の履修指導や学期中の勉学支援（授業の復習・補習等）、ならびに進路決定や就職活動等に必要となる情報提供・キャリア相談など多様な学生ニーズに対応するため、特定の教員がアカデミックアドバイザー（以下、AA）として、ひとりひとりの学生に対してマンツーマンで支援する。

具体的には、入学後の履修科目設定においては、入学時オリエンテーションとは別に、出身学部や希望進路に応じて、担当 AA による助言をもとに履修科目を決定できるよう個別に支援する。特に、2年コースと1年コースの学生では、入学時の知識・技能・経験と卒後の進路先（個人のキャリアアッププラン）も異なることから、入学時（入口）と卒業時（出口）の架橋となる各人の履修科目とコースワークは、その違いを反映したものとなるよう指導する。

1年コースの学生に対しては、特に社会人学生に対する履修指導時には、修了要件や個人の目標に影響を与えない範囲で、職務への負担軽減を考慮しなるべく授業のない時間帯の確保に努める。2年コースの学生に対しても、実務経験がないことから演習や実習の機会を経験できる科目履修を指導し、実習先とのマッチングについても実習科目の担当教員との間に入って事前に相談に応じる。

なお、本学には、オフィスアワー制度（オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんの授業履修、学業成績あるいは学生生活についての相談を受けながら、コミュニケーションを深め、アドバイスすることによって、より良い大学生活を送ってもらうために設けられた、授業以外の時間のことをいう）が設けられているが、本研究科では AA が兼ねます。

(10) 研究科委員会賞

専門職学位課程修了者のうち、特に成績が優秀であった者に対して、研究科委員会賞を授与する。授与者は、成績の最も優秀であった者（総代1名）および成績が優秀で、かつ、具体的な問題解決および社会変革に貢献した者等の条件を満たす者（優秀賞1名）とする。優秀賞は、指導教員ならびにアカデミックアドバイザーから推薦を受けた者を候補者として、研究科委員会にて決定する。

(11) その他留意事項

1. 交通機関の不通と警報による休講

交通機関が事故等で不通になった場合、または台風、大雪等でキャンパスの在る地域に、暴風警報（大雨、洪水警報のみは除く）、大雪警報が発令された場合は、以下の通り休講とする。授業、実習が開始されてから発令された場合は、大学、実習先の指示に従う。

①. 埼京線、山手線、京浜東北線のすべてが不通となった場合

暴風警報または大雪警報が、**東京 23 区**に発令された場合

運転再開の時刻、警報の解除時刻	授業、実習の取扱い
午前 6 時 00 分まで	平常どおり
午前 6 時 00 分から午前 10 時 00 分まで	3 時限目より授業を行う
午前 10 時 00 分以降	1 日休講

②. 上記以外の交通機関の不通、警報が発令されている地域があっても、休講とはしない。登校不可能な状態の場合は必ず大学あるいは実習先に連絡し、指示を受ける。

2. 学費納入について

1. 所定の学費は、前期・後期の二期に分け、前期は5月末日まで、後期は10月末日まで、それぞれ定められた期限内に納入する。詳細は、大学から送付される振込用紙と案内を参照する。
2. 期限内に納入することが困難な場合は、納入期限までに所定の学納金延納願を事務部教務課大学院担当に提出し、許可を得る。
3. 留年した場合、及び復学した場合の学納金については、新たに定められた金額を納入する。
4. 在学中に授業料、その他納付金に変更があった場合には、新たに定められた金額を納入する。
5. 休学中及び停学中であっても学費は全額納入しなければならない。ただし、4月末日までに休学願を提出した者は当該年度の前期分・後期分を、10月末日までに休学願を提出した者は当該年度の後期分を各々半額とする。
6. 既納の学費は如何なる理由があっても返還しない。

3. 事故等について

実習においては指導教員または実習先の担当者の指導のもと、十分留意の上で行う。

①. 万が一、事故等が生じた場合

- ・通学中や、実習先への移動中に転倒してケガをした場合等
- ・炎天下での実習中に熱中症となり入院した場合等

① 次のいずれかまで連絡する。

- ・帝京大学 公衆衛生学研究科 受付 TEL 03-3964-2108
- ・帝京大学板橋キャンパス 事務部教務課大学院担当 TEL 03-3964-3294 (直通)

② 事故の報告書の提出(様式任意)が必要である。

②. 入学時に加入している保険について

- ・「学研災」・・・学生教育研究災害傷害保険
- ・「学研賠」・・・学研災付帯賠償責任保険
- ・「こども保険」・・・こども総合保険(感染予防等)

③. 海外への実習の場合

治療費等は立替払いである。保険請求の際は必ず領収書・診断書等を提出する。英文の場合は日本語訳が必要となる。あくまでの実習中の事故等が対象である。

通常の海外旅行保険への申し込みを勧める。

- ・取扱代理店：株式会社 帝京サービス 保険部
- ・帝京大学 大学棟3号館2階 Tel 03-5943-1988

4. 事務取扱時間

平日： 8:45 ～ 16:45

土曜日： 8:45 ～ 12:00

※祝日、創立記念日、年末年始(12/29～1/3)、
入学試験、オープンキャンパス等の学校行事を除く

大学院公衆衛生学研究科 専門職学位課程 時間割表

2019年度

日付	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30						
曜日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火						
4月			オリエンテーション	入学式	調査研究			調査研究	調査研究						医学基礎	産環概論	基礎生物	課題研究G					医学基礎	産環概論	基礎生物	医学基礎										
					調査研究			調査研究	調査研究								医学基礎	健康医療	基礎生物						医学基礎	健康医療	基礎生物	医学基礎								
					調査研究			調査研究	調査研究									管理安全	政策管理	健康行動	基礎疫学					管理安全	政策管理	健康行動	基礎疫学							
					調査研究			調査研究	調査研究									管理安全	公衛倫理	公衛倫理	基礎疫学					管理安全	公衛倫理	公衛倫理	基礎疫学							
																			調査概論								調査概論									
																			調査演習								調査演習									
5月								産環概論	基礎生物						医学基礎	産環概論	基礎生物					医学基礎	産環概論	基礎生物												
								健康医療	基礎生物						医学基礎	健康医療	基礎生物						医学基礎	健康医療	基礎生物											
								政策管理	健康行動	基礎疫学						管理安全	政策管理	健康行動	基礎疫学				管理安全	政策管理	健康行動	基礎疫学										
									公衛倫理	基礎疫学						管理安全	公衛倫理	公衛倫理	基礎疫学				管理安全	公衛倫理	公衛倫理	基礎疫学										
									調査概論	スタディ							調査概論							調査概論	スタディ											
									調査演習								調査演習							調査演習												
6月				医学基礎	産環概論	基礎生物											医学基礎	地域保健	基礎生物					医学基礎	地域保健	基礎生物										
				医学基礎	健康医療	基礎生物											医学基礎	地域保健	基礎生物					医学基礎	地域保健	基礎生物										
				管理安全	政策管理	健康行動	基礎疫学										管理安全	政策管理	健康行動	基礎疫学				管理安全	政策管理	健康行動	基礎疫学									
				管理安全	公衛倫理	基礎疫学											管理安全	公衛倫理	公衛倫理	基礎疫学				管理安全	公衛倫理	公衛倫理	基礎疫学									
					調査概論	スタディ											調査概論							調査概論	スタディ											
					調査演習												調査演習							調査演習												
7月		医学基礎	地域保健	基礎生物				医学基礎	地域保健	基礎生物						地域保健	基礎生物				Heal. Mana.	Heal. Mana.	Heal. Mana.	Heal. Mana.	Uni. Heal.		医学基礎	地域保健	基礎生物							
		医学基礎	地域保健	基礎生物				医学基礎	地域保健	基礎生物						地域保健	基礎生物				Heal. Mana.	Heal. Mana.	Heal. Mana.	Heal. Mana.	Uni. Heal.		医学基礎	地域保健	基礎生物							
		医療経済	国際概論	健康行動	基礎疫学				医療経済	国際概論	健康行動	基礎疫学				国際概論	健康行動	基礎疫学				Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.		医療経済	国際概論	健康行動			
		医療経済	国際概論	基礎疫学					医療経済	国際概論	基礎疫学					国際概論	基礎疫学					Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.	Uni. Heal.		医療経済	国際概論	基礎疫学			
		医療経済	国際母子	質的研究					医療経済	国際母子	質的研究					国際母子	質的研究					国際母子	質的研究								医療経済	国際母子	質的研究			
8月				看護マネ	医学基礎	地域保健	基礎生物									地域保健																				
				看護マネ	医学基礎	地域保健	基礎生物																													
				看護マネ	医療経済	国際概論	健康行動	基礎疫学	国際概論	看護マネ																										
				看護マネ	医療経済	国際概論	基礎疫学																													
					医療経済	国際母子	質的研究																													
9月																																				

